

2021年3月期 第3四半期 決算説明会



サンケン電気株式会社

2021年2月9日

- 第3四半期業績概要
- 通期業績予想
 - デバイス市場別コメント
 - 2020年度 通期 連結業績予想

第3四半期業績概要

- 3Q累計の売上高は1,098億円と、11月公表値に対し上振れで着地。
- 3Q単独の市場別売上は、11月公表値に対してデバイスの自動車向けが+20%、白物家電向けが+8%、産機・民生向けが+21%と全市場で上振れ。パワーシステムは計画どおり進捗。
- 営業利益は、アレグロのIPO関連費用として51億円を計上し、3Q累計で△38億円。IPO関連の一時的費用を除いた営業利益は13億円。
- 上場時の新株発行と株式売却等により資本剰余金が208億円増加。
- アレグロIPO時の配当リキャップで借入れたUSD 325Mは上場新株発行手取金によりUSD 300Mを返済済み。

＜参考＞アレグロIPO概要

上場市場：Nasdaq Global Select Market

上場日：2020年10月29日（米国時間）

公開株数：28.75M株（新規発行 25.0M + オーバーアロットメント3.75M）

公開価格：USD 14.00／株

2020年度 第3四半期 連結業績概要

(億円)

	19年度				20年度				3Q累計 昨年同期比	
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計	金額	%
売上高	378	405	405	1,188	316	365	416	1,098	-90	-7.6
デバイス	336	343	351	1,029	281	319	369	969	-60	-5.8
パワーシステム	43	62	54	158	35	46	47	128	-30	-19.0
営業利益	-7	10	16	19	-8	2	-32	-38	-58	-
経常利益	-11	4	18	11	-8	1	-49	-57	-68	-
特別損益	-1	-14	-39	-55	-4	-23	-6	-33	+22	-
当期純利益	-21	-21	-32	-74	-16	-33	-12	-61	+13	-

為替レート/US\$ 109.91 108.61 108.66 108.66 107.64 106.93 106.11 106.11

※比率は百万円単位の数値から算出

2020年度 第3四半期 連結業績概要 (アレグロIPO影響除く)

(億円)

	20年度			
	1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	316	365	416	1,098
営業利益	-8	2	19	13
経常利益	-8	1	11	4
当期純利益	-16	-33	15	-34

為替レート/US\$ 107.64 106.93 106.11 106.11

<主な調整項目>

営業費用 : アレグロIPO関連 51

営業外費用 : アレグロ配当関連 10



2020年度 第3四半期 連結業績概要 (Non-GAAPベース)

※当社が定める非経常的な項目やその他の調整項目を控除した業績。

(億円)

	20年度			
	1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	316	365	416	1,098
営業利益	-1	10	26	35
経常利益	-1	9	18	26
当期純利益	-8	-5	23	10

為替レート/US\$ 107.64 106.93 106.11 106.11

<主なNon-GAAP調整項目>

営業費用 : アレグロ IPO関連 51、構造改革ほか 22

営業外費用 : アレグロ配当関連 10

特別損失 : 構造改革 31

市場別 デバイス連結売上高 四半期推移

3Q実績は、

- ・自動車：顧客の生産が想定より早く回復し、2Q比+27%、前3Q比+2%
- ・白物：中国のインバータ化増と韓国の需要維持で、2Q比+6%、前3Q比+4%
- ・産機・民生：サーバーやTV向けの出荷増で、2Q比+6%、前3Q比+17%



※比率は本表に示した億円単位の数値から算出

通期業績予想

連結業績予想の考え方と今後の見通し

<背景>

- 足元の受注は、想定より回復が早く、一部製品で能力以上の受注が来ている。半導体市況全体の動きとして、ファンドリの生産能力やウエーハの逼迫に対するリスクは認識しており、取引先と情報交換中。
- 受注回復を踏まえて今期の売上見通しはほぼ立ったが、半導体不足による自動車減産の情報やコンテナ不足による物流遅延の影響も鑑み、当社顧客の需要動向を注視している。
- 営業利益は、受注に基づく生産水準を織り込み、4Qに一時的な損益影響も含めて想定。
- 経常利益以下の項目は、構造改革の一時的費用とアレグロIPOによる非支配持分の変化などを考慮した。

デバイス市場別コメント

自動車市場

- 11月のガイダンスでは、2020年の世界生産見通しを75M台と置いたが、ほぼ想定通り着地。主に中国・米国での生産台数の回復により、日本と欧州の生産がやや停滞する中で、2021年の世界生産見通しは87M台程度を想定。
- 当社の足元の受注は好調で、半導体不足による減産の影響は今の所みられないが、先行発注の反動はリスクとして認識。新型コロナの再拡大の影響を含め、顧客サプライチェーンの在庫動向を注視し、真の需要を見極めていく。
- 自動車生産の急回復により、現在は各半導体メーカーの生産が追いついていないと推定されるが、数か月をかけて徐々に解消していくとみている。

白物家電市場

- 中国エアコンは、省エネ規格統一により大手4社のインバータ機生産は着実に増加しており、販売も好調なことから、完成品在庫の水準も安定している。
- 韓国向けは、3Q以降も当社の顧客が欧米市場中心に販売好調であり、当社の受注も好調継続。
- この先の推移を見通すと、国内向け需要の回復基調もあり、総じて堅調。来期もインバータ化が更に伸長する中国エアコンと、韓国向けを中心に売上増を想定。
- 新型コロナの再拡大により顧客が生産調整に入る可能性はあるが、数値には織り込んでいない。

産機市場

- 産機市場は米中貿易摩擦と新型コロナの影響を受けているが、中国を中心に回復局面にあり、サーバー向け受注は堅調。
- OA市場向けは、小型プリンタを中心に好調な需要が継続しており、コロナ前の水準に戻りつつある。

民生市場

- TVの需要回復、及び大型TVへの採用拡大により、売上は前年比増で推移。来期も継続する見通し。

2020年度 通期 連結業績予想

(億円)

	19年度			20年度			前期比	
	上期	下期	通期	上期 実績	下期 予想	通期 予想	金額	%
売上高	783	819	1,602	681	869	1,550	-52	-3.3
デバイス	679	701	1,380	600	756	1,356	-24	-1.7
パワーシステム	104	118	222	81	113	194	-29	-12.9
営業利益	3	40	43	-6	-23	-29	-72	—
経常利益	-7	34	27	-7	-41	-48	-75	—
特別利益	0	41	41	0	0	0	-41	—
特別損失	16	68	84	27	13	40	-44	—
当期純利益	-42	-13	-56	-49	-34	-83	-27	—

為替レート: 19年度 108.71円/US\$ 20年度4Q 103.00円/US\$ ※前期比率は百万円単位の数値から算出

2020年度 通期 連結業績予想 (アレグロIPO影響除く)

(億円)

	19年度			20年度			前期比		11月 業績予想
	上期	下期	通期	上期 実績	下期 予想	通期 予想	金額	%	金額
売上高	783	819	1,602	681	869	1,550	-52	-3.2	1,440
営業利益	3	40	43	-6	28	22	-21	-48.9	6
経常利益	-7	34	27	-7	20	13	-14	-51.4	2
当期純利益	-42	-13	-56	-49	-7	-56	0	—	-70

<主な調整項目>

営業費用 : アレグロIPO関連 51

営業外費用 : アレグロ配当関連 10

2020年度 通期 連結業績予想 (Non-GAAP)

※当社が定める非経常的な項目やその他の調整項目を控除した業績。

(億円)

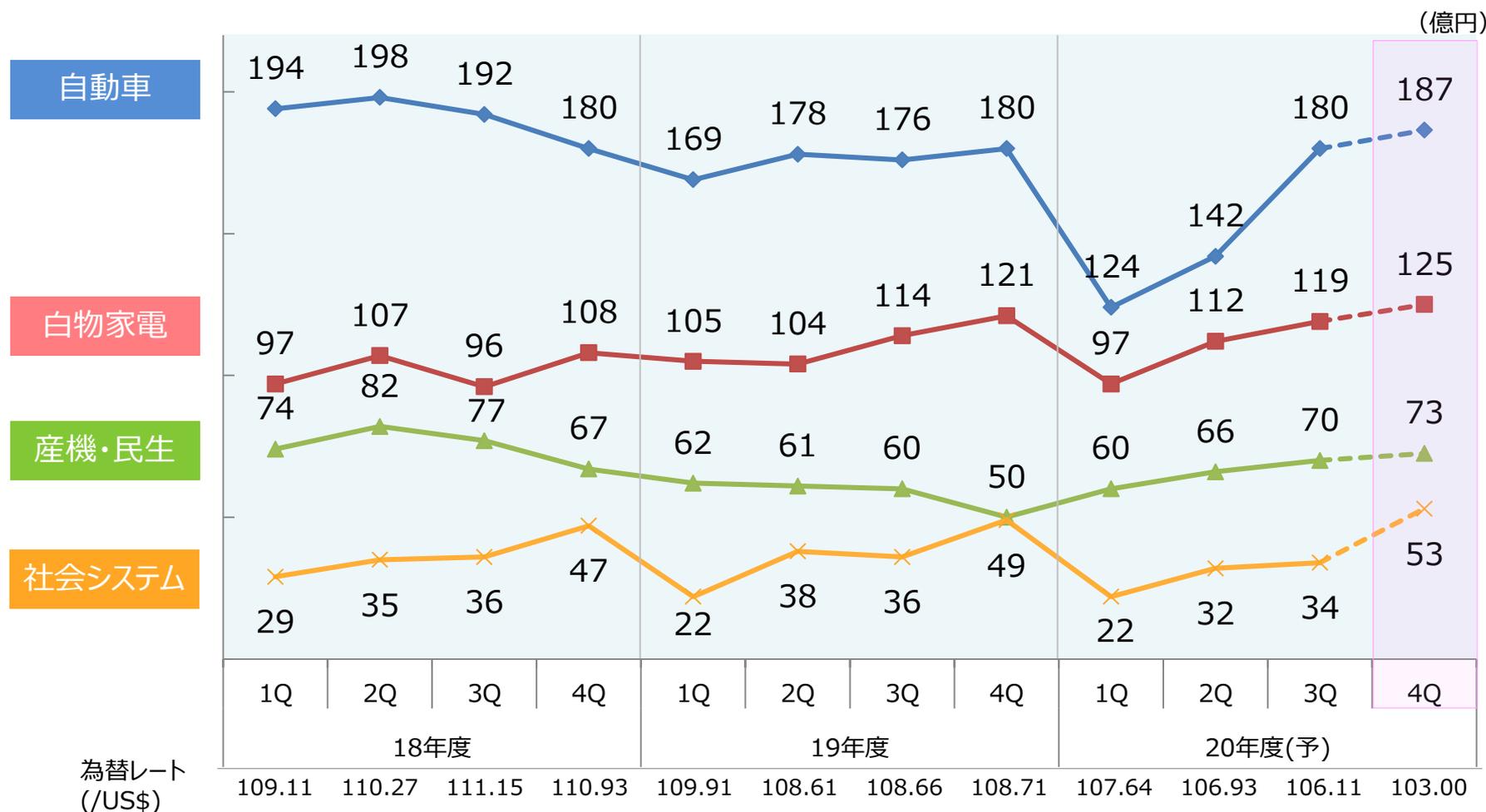
	19年度			20年度			前期比	
	上期	下期	通期	上期 実績	下期 予想	通期 予想	金額	%
売上高	783	819	1,602	681	869	1,550	-52	-3.3
営業利益	3	40	43	9	58	67	+24	+55.5
経常利益	-7	34	27	8	50	58	+31	+115.5
当期純利益	-26	14	-13	-13	16	3	+16	—

<主なNon-GAAP調整項目（20年度）>

- 営業費用 : アレグロ IPO関連 51、構造改革ほか 31、海外 コロナ対応 14
- 営業外費用 : アレグロ 配当関連 10
- 特別損失 : 構造改革 37

市場別 連結売上高 通期予想

- 自動車は、足元の受注回復を背景に、4Qは対前同比でプラスを想定。
- 白物家電は、好調な韓国向けと日本向けの回復により、4Qは対前同比でプラスを想定。
- 産機・民生は、引き続きサーバー・プリンタ・TVとも、4Qは3Q比で同水準を想定。



2Q決算発表後に頂いた主なご質問

アレグロ株式保有比率についての方針は？

上場後もアレグロと技術・開発・販売等の分野で連携を継続。戦略的に重要な役割を果たしており、過半数を維持する。

STマイクロエレクトロニクスとの戦略的パートナーシップの意義は？

両社の得意なチップを組み合わせることで市場投入のスピードアップ、販路拡大、産機市場での売上拡大を期待している。

EVシフトへの対応と進捗状況は？

EVトラクションモータ駆動用インバータ向けパワーカードは大連で生産ラインを立ち上げ中。将来的には国内生産も視野に入れ、事業の大きな柱の一つにしていく。

構造改革や開発改革の進捗は？

- ・生産再編は22年3月完了に向け着実に進捗。
- ・中国 江陰工場は、合併先へサンケン持分の売却を合意。（今期中を目途）
- ・新製品売上比率は着実に良化。2022年度目標20%に向けて順調に推移している。



2021年3月期 第3四半期 決算説明会

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社及び当社グループに関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1) 経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2) 為替レートの変動、(3) 技術進化への追隨の成否、(4) 原材料の高騰あるいは調達難、(5) 各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6) 偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。